

長雨が影響？ 学校の天井落下相次ぐ 大阪市教委が調査

2021/8/20 10:31



大阪市立平野中学校で7月に落下した天井のコンクリート片（市教育委員会提供）

大阪市内の学校で今年の1学期、施設の天井の一部が落下する事故が相次いだ。7月には、中学校のプール更衣室で重さ約5キロの天井コンクリート片が落ちて生徒がけがをする事故も発生。市教育委員会が築40年以上の更衣室を緊急点検した結果、小中高校計10校で補修工事が必要であることが分かった。原因は施設の劣化に加え、今年の長雨が影響したとみられている。（井上浩平）

「教室の天井ボードが、授業直前に落ちた」

5月24日、市立瓜破(うりわり)小(同市平野区)から、市教委にこんな事故の連絡が入った。落下したのは縦45センチ、横90センチ、重さ約2・6キロの石膏(せっこう)ボード。始業前だが十数人が登校しており、ボードは児童1人の左腕に接触。けがはなかったのが幸いだった。この教室では、以前から雨漏りがしていたという。

7月5日には大阪府立東住吉支援学校(同市東住吉区)の高等部の教室で、重さ約2キロの天井ボードが落下。この日は市立平野中(同市平野区)のプール更衣室でも天井から重さ約5キロのコンクリート片が落下し、着替えをしていた水泳部の男子生徒が頭に軽傷を負った。

市教委と府教委によると、事故が起きた学校施設はいずれも、築40年以上が経過。雨漏りや鉄筋の錆(さび)付き、コンクリートの浮きが見られるなど老朽化が進んでおり、府教委は東住吉支援学校の事故について「雨漏りが原因」と発表。市教委も、原因として劣化した建物に大雨や長雨の影響があったとみている。実際、瓜破小の事故前日の5月23日は大雨で、平野中の事故が起きた7月5日も雨がよく降った時期だった。